

七年三月
九年十月
九年二月

78 山

24) 不動
不着
185

(株) 芳屋 代理

在 太坂
 備前 第一
 申請者 榎本新之助
 後アノシヨ 仁崎喜代藏
 会員 岩原 在留人
 申請額 金二萬參千七百五拾五圓貳拾五
 備考
 副申請
 金定額
 申す 申す
 三石十九月五十一日

外務省

山崎謙吉生誕地定款尾書

(已號川紙)

5-1115

普通
第 4211 号
11.7.1

救恤審査會

社第六七一號

大正十一年六月二十九日

大阪府知事 池松 時

外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

救恤金下付申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年四月法律第三十九號及同五月勅令第二百四十七號ニ依ル
救恤金下付申請書提出ニ付本年五月二日歐一普通合第七二〇號御訓令ニ係
ル調書添付及進達候

記

大阪市南區大寶寺町東ノ町十九番地

石崎 喜代藏

救恤申請書第一號

原簿登録第三號

大阪府

前三五号

5-1115

調書

第一勅令第百四十七號第二條各項ノ事項ニ関スル申

請書ノ記述ハ根據シ有スルモノト認メラルルヤ

別紙申請書ニ大正十年三月在牛牲帝國領事館

シ經由レテ外務大臣へ提出セシ旨記載セル証據

書類及参考書類目録ニ依レハ申請人ハ財ナクモ

大正三年以降露領内ニ於テ商業シ營ミ居リシハ

事實ナリト認メラルルモ申請書ノ記述カ盡ク根

據シ有スルヤ否ヤハ調査ノ方法ナシ

第二申請書記載ノ總損害額カ申請者ノ経歴

資産及信用ノ實情ニ照シ穩當ナリト認メ

ラルルヤ

申請人ハ多年露領内ニ居住シ最近帰朝シタル者

大阪府

ニレテ大阪市ニ於テハ從來何等ノ事業シモ經營セシ

コトナキシ以テ本人ノ申立ニ依ルノ外其ノ性行及信

用ノ程度等モ判明セズ又財産モ屢次ノ引揚ニ依

リ被リタル損害ノ為ノ大部分ヲ亡失シタル由ニレテ

現今ハ其ノ親戚ニ當ル前川幸三郎ナル者ノ經營ス

ル礦山事業ニ從事シテ生計ヲ營ミ別ニ財産ヲ有セザ

ル趣ナルヲ以テ孰レノ方面ヨリ見ルモ申請書記載ノ

損害額ガ果シテ穩當ナルヤ否ヤハ全ク推測ス

ヘキ資料ナシ

以上

第壹號

上願書

大阪市南區大寶寺町東ノ丁
拾九番地

石崎喜代藏

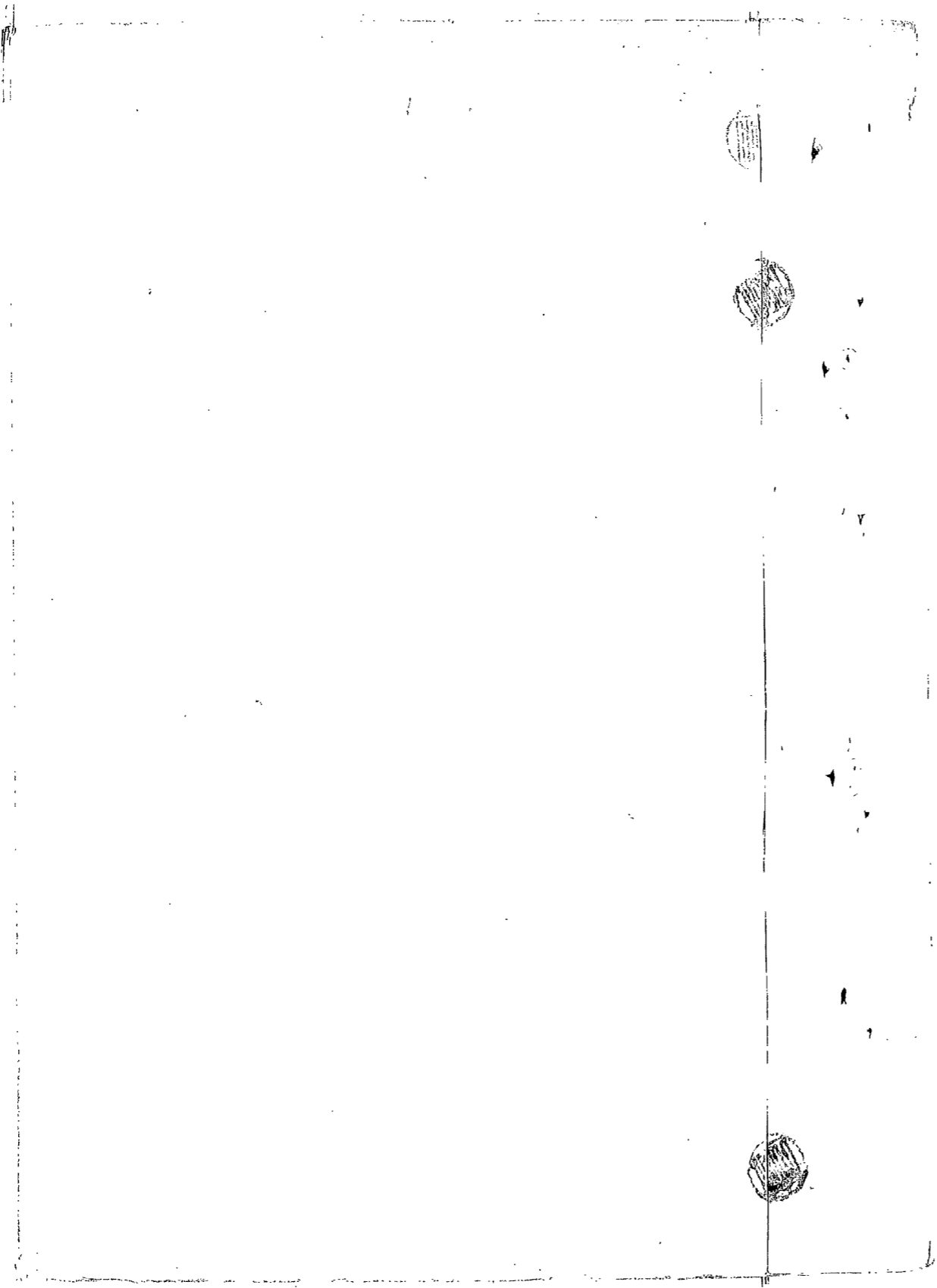
露國政變及ビ西北利亞事變ノ為メ損害ヲ被リ
タル者ノ救恤ニ關スル大正拾一年四月拾二日
公布法律第百九拾九號并ニ大正拾一年五月二日
公布敕令第貳百四拾七號ニ依リ損害申請書ヲ
提出仕候何卒御詮議ノ上御救恤相成度候
大正拾壹年六月一日

右

石崎喜代藏

外務大臣伯爵内田康哉殿





5-1 1 1 5



Handwritten notes at the top of the page, including the date '大正十年六月' and other illegible characters.

大正拾壹年六月

紙數表紙共拾四枚

救恤金下附申請書

申請人石崎喜代藏



紙共拾四枚

喜代藏

(一) 詔第一号ニ徴之ニ後實品目一及至四ノ片(圖)高在巻紙

詔書日付ハ大正九年十月二日ナリ
詔書本ノ留封書ニモ申渡書ニ内儀書ノ坐田ニ
檢算封上レリ

(二) 詔第一号ヲ取人曰スクフニ隠托シ先御書面日付ハ大正
七年八月廿日ナリ

然レ申指人ハ世後里河ヲ御取シ八年十月及九年二月
兩回ノ引揚ヲ度シ居シリ世同前記托書ヲ放置ニ置キ
筆本トシハ云カ處理方指ヲ御取スニアラカレハ後御執事
類ハ御取方指ヲ用テモ之ノ効方ナシト思フナリ

喜代



申請書

石崎喜代藏

大正拾壹年六月一日

記

石崎喜代藏

明治三年九月九日生

金銀精煉業

大正七年林外薪吳服商

大正九年山口商會會員吳服商

大坂市南區大寶寺町東ノ丁

拾九番地

現籍地

時職業

被害者

職業

年 齡

氏 名

現住所

原籍地同じ

被害場所

露領黒龍江省ブラゴウ子工
ンスク市ソホルナヤ街

被害ノ年月日

第一次

大正七年三月武市政変ニ依
清國黒河ニ避難ス

第二次

大正七年七月日本軍西北利
亞出兵ニ決定黒河避難ス

第三次

大正八年拾月武市形勢不隠
ニ依リ註在軍ノ警告ニ依テ
軍隊共舎ニ避難ス

第四次

大正九年二月黒龍州ヨリ軍

隊ノ撤兵ニ依ル帝國政府ノ
引揚命令ニ依リテ申請人ハ
黒河ニ引揚ケ家族ハ軍隊ト
共ニ浦潮斯徳ヲ經テ長崎縣
ニ歸還ス

引揚前後ノ事情

歐洲大戰後露國ニ革命起リ惹ヒテ東部西北利
亞方面ニモ全次過激思想ヲ謳歌スル者日ヲ趁
フテ多クナリ大正六年末ヨリ其思想ノ險惡ニ
導キ在留民ニモ危険ヲ感シ居リシカ當時參謀
本部ノ当局者ガ武市方面ノ状況踏査ナシ我
在留ニ對シ過激思想ノ浸入ト防壓ニ努メ且ツ一

一頁加

朝有事ノ際ニハ國家ノ為ノ努力セシムトテ從
通サレタリ大正七年頭ニ於テ當時過激派首領
ムーヒン一派ノ共產主義ヲ唱導ナシ是ニ雷同
ナス者日ニ多ク其結果白晝強盜殺人犯ノ行ハ
ルニ至リ實ニ危險極リナク何等カノ方法ヲ設
ケントスル際我當局者、指揮命令ヲ受テ我々
在留民ハ自衛ノ為ノ且ツ哥薩克ト溫和派其行
動ヲ共ニセシム事ヲ決シタリ是在留民ノ一部ニ
ハ何レノ黨派ニモ與セズ局外ニ中立ヲ嚴守ナ
ス方、在留民トシテハ安全ナラント異議ヲ唱ヘ
ル者モアリタリ

大正七年三月遂ニ溫和派對過激派ノ衝突ヲ未

シ我同胞中ニ九名、戦死者ト數名、重輕傷者
ヲ出シタリ申請人モ亦輕微ナル負傷ヲ受タリ
斯クテ武市ハ過激派ノ蹂躪スル処トナリ厭迫
危険ノ度酷數面三家宅ノ搜索ヲ受テ其都度ニ
短銃ヲ疑シ威赫強迫ヲ受テ危險身ニ迫リタル
ヲ以テ申請人ハ清國人ニ変装ナシテ漸クニシ
テ身ヲ清國黑河逃レテ避難スルヲ得タリ是第
一次ノ引揚避難トス

右黑河避難中ニ過激派ノ反感ヲ懷カレタル故
ニヤ邦人ノ家宅ハ搜索ニ依リ商品家財ハ掠奪
サレタル者多カリシ

申請人ハ是際大部分ノ損害ヲ受タリ

其後黒河ニ於ル邦人避難民ノ中ニハ二月間ノ座食ニ依リ生活ノ困難ヲ感ジ是上座食ナキヲ得ザル者ヲ生ジタルヲ以テ領事官ヨリ過激派ニ交渉ノ結果生命財産ノ保証ヲ得テ五月下旬ニ敵地ノ如キ武市ニ歸還ナシ従前ノ業務ニ從ヒタリ

大正七年七月ニ至リテ日本政府ハ西比利亞ニ軍隊出勤ナスコトニ決定ナスト同時ニ領事官ヨリ在留民一般ニ對シ危険ノ愆レアルハ一時避難ナスベキ旨達セラレ復歸後ニケ月ナラバシテ亦黒河ニ引揚ゲ避難ス是第二次ノ引揚ゲ避難トナス

申請人ハ是際關東廳ヨリ特派シラレタル特務機關石光公館ニ會計事務ヲ執ル為メニ雇員トシテ執務ナセリ

申請人ハ黒河ニ第二次避難中ニ今回日本帝國政府ノ西比利亞ニ出兵ニ依リ永ク平和ノ確保カレル者ト思考ナシ富山縣人箱原良景福井縣人加藤慎太郎等ノ有志者ト相計リ永遠ニ日露貿易ニ資センガ為メ大井ニ發展努力ナカンコトヲ期シテ株式會社アムール商會ナルモノヲ設立ナシ創立總會ヲ黒河ニ於テ開催ナシ左ノ件ヲ決議ヲナシテ成立ス

一名稱

アムール商會

以下アール
向合ノ録

二目的	日音貿易
三資本金	五拾萬留
四株數	壹萬株 (實二萬五千)
五株金額	五拾留
六迎田建金	拾貳留五拾哥
七創立委員長	稻原良景

大正七年九月日本軍隊ノ武市ニ入りテ續イテ
在留民モ亦武市ニ居住ナス事ヲ得テ前ニ創立
ナシタル株式會社アール商會ヲアール街
田稻原商店跡ニ開設ナシ申請人ハ社員トシテ
其業務ニ從ヒ大井ニ努力發展ヲ期ス其後業務
益々隆昌發展ナスニ依リ資本金ノ欠七ヲ感ジ

大正八年五月株主定期總會ニ於テ増資ノ決議
ヲナシ資本金百貳拾五萬留株數ヲ貳萬五千株
トナス其後約拾ヶ月間ハ駐在軍ノ保護ノ下ニ
安全ニ商業ニ從事ナスヲ得タリ是間時々過激
派討伐ノ聲ヲ聞ケド何等ノ打撃損害モ蒙ラズ
大正八月拾月結氷期ニ至リテ一時我軍隊ノ威
力ニ依リテ隻影ヲ認メザリシ過激派ハ擡頭シ
来リ郡部ヨリ武市街ヲ攻撃ナスヤノ風説アリ
シカ拾月下旬ニ駐在軍ヨリノ警告ニ依リ在留
民ノ危險ナル狀況ナレハ駐在軍兵舎ニ引揚グ
ベキノ命ニ依リ即日兵營内ニ避難ナシタリ是
第三次引揚トナス



外(四)防

越テ大正九年貳月下旬ニ至リテ我軍隊ノ態度
一変ナシ急轉直下ニ黑龍州ヨリ徽兵ヲ断行セ
ルニ至リテ我領事官ヨリハ軍隊ト共ニ少カノ
斯日内ニ引拂ッベキノ命アリ申請人ハ如何共
成ル外ヲ知ラズ商品家賤器具ヲ賣却ナランニ
モ購買者ナク殆ント棄ニ任カシテ軍隊ノ
徽兵ト同時ニ引拂ケノ止ムナキニ至リタリ申
請人ハ株式会社アムール商會ノ善後處分方法
ヲ講スベキ責任上他ノ社員ハ直ニ在留引拂
民ト共ニ浦潮斯徳ニ引拂ケタドモ社長稻原良
景ト共ニ一時清國領黑河ニ引拂ケ同地ニ於テ
殘留アムール商會ノ善後ノ処分ヲ講スベキニ

アムール商
會解散

決シ大正九年五月黑河ニ於テ殘留株主ノ總會
ヲ開催ナシ其決議承認ヲ經テアムール商會ヲ
解散ニ決ス其殘務ヲ整理ナシ報告ヲナス
大正九年七月申請人ハ北滿州奉天省錦州城裡
商品陳列館主任ニ就職ナセシニ付黑河ヲ引拂
ケ錦州ニ赴任ナス
大正拾年拾貳月錦州商品陳列館ヲ辭シ内地ニ
歸還ナシ現職業ニ就ク

損害種類程度價格事由

一金貳萬未付七百五拾圓貳拾錢 損害總額

内譯



安撫の旨より長月アリ度同様にツク花

以上は國幣
以下は
地方債

損害種類

損害程度價格

損害事由内容

白絹ハシカ子	四疋	二六〇〇〇	証書発給し通イハクソ市
黒絹ハシカ子	二疋	一五〇〇〇	片岡商店委託商品代金
絹首巻	二疋	二二〇〇〇	回収不能
絹ハシカ子	半疋	四八〇〇〇	前同し
薪	百升	五三〇〇〇	官有濱地ニ監守人ヲ附保管 中監守人逃亡依り全損
馬	二頭	三五〇〇〇	引揚際ニ責却依り生損
馬車	二台	五〇〇〇〇	前同し
馬具類	種々	一五〇〇〇	前同し
馬糧		一六一〇〇	貯藏品全損
大鏡	四個	一五〇〇〇	家主フミノウニ預託保管
大額面	五個	一〇〇〇〇	中給失全損

大食卓

一個

三〇〇〇

前同し

椅子

二個

二〇〇〇

前同し

食器箱

食器入
一個

三〇〇〇

前同し

椅子

三個

一五〇〇

前同し

大鹿角

一個

一二〇〇

前同し

薪

ホサシ

六六六〇

前同し

其他厨算

一切

一五〇〇〇

前同し

善類

善類
一棹

五〇〇〇

前同し

高足草笥

一棹

三〇〇〇

前同し

御名反物

三五反

八七五〇〇

前同し

伊勢崎結仙

二十八反

四二〇〇〇

前同し

友仙

二十疋

六三〇〇〇

前同し

三〇〇〇分
一五反
加



<p>大中羽二重 五ヤル 二十ニ疋</p> <p>絹ハシカチ 拾五疋</p> <p>絹吉足袋 七疋</p> <p>其他綿物</p> <p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>
<p>大正九年二月アール商會主任橋原 碩説金全換</p>	<p>第一次避難中ニ係ル黒河於ル 諸費用ニテ月介</p>	<p>第二次避難中ニ係ル黒河於ル 諸費用ニテ月介</p>	<p>第四次引揚除ニ家族店員ノ 歸國旅費</p>	<p>第四次引揚後黒河四月階留并 歸國旅費</p>	<p>引揚後ノ田収不能然ル</p>	<p>大正九年二月アール商會主任橋原 碩説金全換</p>	<p>第一次避難中ニ係ル黒河於ル 諸費用ニテ月介</p>	<p>第二次避難中ニ係ル黒河於ル 諸費用ニテ月介</p>	<p>第四次引揚除ニ家族店員ノ 歸國旅費</p>	<p>第四次引揚後黒河四月階留并 歸國旅費</p>	<p>引揚後ノ田収不能然ル</p>	<p>大正九年二月アール商會主任橋原 碩説金全換</p>
<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>	<p>前同</p>

商 品

以上

引揚前ニ申請人ノ在留ニシタル期間

申請人ハ明治貳拾九年六月露領尼古利斯克市

ニ渡航ナス同市住友商店ニ於テ語學研究并ニ

店務ニ従事ナシ明治三拾年一月迄同市ニ在留

ナス

明治三拾年一月ヨリ明治三拾六年十一月迄ハ

露領ハバロフスリ市ボボスカヤ街ニ在留ス

明治三拾九年一月ヨリ同年五月迄ハバロフス

リ市ニ在留ナス

第四次引揚際ニ商品現在
 高約四十円ヲ清商孫積盛ニ
 金五十百円ニ賣却分ヨリ
 生ミタル損害

大正九年二月アール商會主任橋原
 碩説金全換

休業費

大正九年二月アール商會主任橋原
 碩説金全換

明治四拾四年十月ヨリ大正九年二月最後ノ引揚迄ハ露領ブラゴウエナエスク市ソボルナヤ街ハ拾六號地ニ居住在留ス

証據書類并ニ參考書

第壹號 イルクワク市片岡商店名義商品預

リ証損害明細表第一項ヨリ第四項

ニ至ル分 尙 通

第貳號 ブラゴウエナエンスク市役所ヨリ

受ケタル西歴千九百十六年度營業

鑑札 稅額 拾八留五十哥 尙 枚

第三號 前同様武市役所ヨリ受ケタル西歴

千九百拾七年營業鑑札

第四號 稅額 金拾八留五十哥 尙 枚
 ブラゴウエナエンスク市會計局ハ

納入所得稅受領証 稅額 金貳拾貳留 尙 枚

第五號 官有濱地百貳拾五立方サシニ借地
 料納附受領証 但、薪炭木置場

第六號 借地料金百貳拾五留 尙 枚
 稅馬 貳頭稅金受領証千九百十四 尙 枚

第七號 稅馬 貳頭稅金受領証千九百十五 尙 枚
 年度分

第八號 稅馬 貳頭稅金受領証千九百十六 尙 枚
 年度分



第九號	年度分 ブラゴウエキエンスク市ヨリ受ケ タル營業鑑札料納入仮受領証 税額 馬車貳台ノ番號證明料納入受領証 手数料金 尙四十四錢	尙 枚
第十號	馬貳頭家畜稅納入受領証 千九百十 七年度分	尙 枚
第十一號	馬貳頭家畜稅納入受領証 千九百十 六年度分	尙 枚
第十二號	避艱引揚ニ際シ家主フジノワニ商 品家財器具ヲ預ケタル自筆預リ証	尙 枚

第十四號	損害明細書第十項ヨリ第十號拾七項 ニ至ル預リ証	尙 通
第十五號	大日本帝國政府外務大臣ヨリ下附 ナリタル海外旅券明治四拾四年拾 月三日附 露國居住證明書附西曆千九百拾九 年三月十五日附	尙 通
第十六號	大正六年六月三十日附資産負債表 并ニ損益結算表	尙 枚
第十七號	大正六年十二月三十一日附資産負 債表并ニ損益結算表	尙 枚
第十八號	大正七年二月二十八日ニ於ル現在	



貸借對照表

志 牧

第拾八號

大正八年十二月三十一日附資産負債表并ニ損益結算表

前記ノ証據書類并ニ参考書ハ大正十年三月在

清國牛莊大日本帝國領事館經由ニテ

外務大臣伯爵内田康哉閣下ニ提出ナシタル損

害明細書ニ添附ナシタリ

其他参考トナルベキ事項

申請人ハ明治三十三年ニ北滿州哈拉賓ニ於テ

日本人トシテ第一著ニ日本商店ヲ開設ナシタリ

リ其後元使用人長崎縣人森重雄ニ經營ヲ一任

ナシハバロフスリ市ニ在任ナス明治三十三年

北清事變起リテ損害ヲ被リタガ後年森重雄名

義ニテ損害賠償金ノ下附アリタリ

ハバロフスリ市在任中ハ長崎縣人松下彌重ト

協同出資ニテボボウスカヤ街ニ日本雜貨店ヲ

經營ナセリ申請人ハ主任者トシテ業務ニ從ヒ

大井ニ日魯貿易ニ努力セリ明治三十七八年役

ニ在留民ノ引揚ニ依リ復亦損害ヲ被リタリ明

治四十四年ニ至リテ損害救恤金ノ下附ヲ受ケ

タリ

明治四十四年未ダラゴウエ子エンスリ市ニ在

留中ハ始メ呉服太物類ヲ専業トナセシガ大正

二年ヨリ杓木并ニ薪ノ買入レ販賣ヲ兼業トナ



シ大井ニ奮闘努力ノ結果營業隆昌トナリ益々
 發展擴張ヲ期シタルニ一朝西比利亞事變ノ為
 ノ報復ヨリ破壊サレタリシガ日本軍隊出兵ト
 ナリ武市に駐在アルニ至リ在留民モ亦復歸居
 任ナス得タリ申請人ハ旧業ニ復スルヲ得ズ株
 式會社アムール商會社員トシテ社務ニ從事シ
 自宅ニ於テ兵服類ヲ販賣ス
 損害明細書第一項ヨリ第十七項ニ至ル損害ハ
 其當時武市駐在平塚領事官ノ許ニ届ケアリ
 第十ハ項以下ハ最後引揚ケニ依リ被リタル損
 害トナス
 被害當時ニ於ル申請人ノ月収入金

大正九年二月現在

營業收益金一ヶ月	金貳百五拾圓
アムール商會給料	金九拾五圓
アムール商會賞與月額	金參百圓
武市特務機關月手当	金八拾圓
計	七百貳拾五圓
一ヶ月収得金高	七百貳拾五圓

参考書第拾六號大正六年十二月三十一日於ル
 資産負債表ト第拾八號大正八年十二月三十一
 日ニ於ル資産負債表ト對照ナスニ資本金勘定
 ニ於テ四千余圓ノ減資トナリ是事變ニ依リテ
 被リタル損失ニ起因スルモノナリ
 申請人ハ明治二十九年ヨリ收々トシテ西比利



亞貿易ニ勉メ北清事変并ニ三十七八年ノ戰役
ノ大打撃ヲ被ルモ屈セズ若闕奮進ヲ續ケ大井
ニ努力ノ結果表ツレ大正五六年ノ頃ヨリ基礎
モ堅實トナリ益々發展擴張ニ勉メシガ歐洲大
戰後西比利亞ニ於ル物資欠乏ヲ未シ物價日ニ
騰貴シ商人ヲ利スル多大ニシテ申請人モ相当
ノ基礎ヲ築キシニ一朝事変ノ為メ數十年未ノ
苦辛モ水泡トナリ涙ヲ吞ムテ引揚ケノ止ムナ
キニ至リ悲惨ノ境遇ニ陥リタルニ付何卒御詮
議ノ上救恤相成度是故申請仕候

以上

右

石崎喜代藏

大正拾一年六月一日

外務大臣伯齋内田康哉殿

屬書類

正拾年四月拾壹日接獲

註款

第課

介三回方

大正十年四月五日

武市部 領事 清水八百一

外務大臣伯爵内田康哉殿

敬啟

元「ブラゴウエシケニス」在留石崎喜代藏ヨリ
提出ノ西比利亞引揚損害救済方ニ関スル
上申書轉達ノ件

明治四十四年頃ヨリ「ブラゴウエシケニス」市「ソボ
ルナヤ」街ニ於テ兵服及物商ヲ營ミ大正七年
七月黒河ニ避難シ今九年二月西比利亞一

在牛莊日本領事館

部撤兵ノ際帝國政府ノ命ニ從ヒ黒河ヲ引揚ケ
タル由ニテ目下錦州城裡東街路北錦州商
品陳列館ニ勤メ居ル原籍大阪市南區大寶
寺町東ノ丁拾九番地石崎喜代藏ヨリ左人カ西
比利亞引揚「タメ」蒙レル損害救済方ニ関シ
上申書ヲ提出スルニシテ本省ニ轉達方願出候
處右損害救済方ニ関シテハ未ク何等御訓令
ニ接シ居ラサルニナラス左人損害程度モ當地ニ
テハ之ヲ調査スルノ便ヲ欠キ其ノ程度明ナラサルモ
免ニ角本人ノ願出ニ從ヒ別紙上申書(附屬書
類損害明細書及證據書類綴各壹通)壹通
茲及轉達候間可也御取計相成度此致
申進候 敬息



上申書

石崎喜代藏

大正拾年三月十七日

原籍 大坂市南區大寶寺町東丁拾九番地
現住所 清國奉天省錦州城裡東街路北
職業 錦州高品陳列館支配人
氏名 石崎喜代藏
年 齡 明治三年五月九日生

一 私儀

西比利亞在留中別書損害調書通
被害仕候ニ付御詮議止仰救恤相
成度候

右

石崎喜代藏

大日本帝國政府

外務大臣内田康哉殿

伯爵

5-1 1 1 5

0029

損害明細書

石崎喜代藏

大正拾年三月廿七日

多号おしよト

大正七年三月武市政變に依り黒河遼報引揚
大正七年七月西比利亞出兵に依り黒河第二次引揚
大正九年二月西比利亞撤兵に依り帝國政府命令
黒河引揚為シタル損害領左ノ通リ
相遠無之候

記



原籍	大政市南區大寶寺町東丁拾九番地
現任所	清國奉天省錦州城裡東街路北
職業	錦州商品陳列館支配人
氏名	石崎喜代藏
年 齡	明治三年五月九日生
被害當時住所	露領魚龍省ブレストウチン市ソボルヤ街
被害當時職業	大正七年除 薪材木 吳服及柳商
被害當時職業	大正九年除 吳服及柳商
被害當時職業	大正九年除 營業收入益貳百五拾圓
月収額	アール高會給料九拾五圓

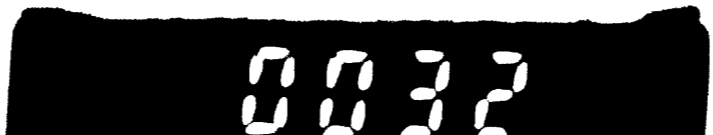
在留期間	アール高會賞共金月額 冬百圓 武市特務機關月手當 八拾圓 明治四拾四年より大正九年六月迄	
損害金額	一金壹萬八千圓拾錢也 損害總額	
被害物件名稱	數量	被害理由及内容
二六〇〇〇 白絹シヤチ	四 疋	証書迄 阿爾高會支配人
一五〇〇〇 黒 日 貳 疋	日 疋	阿爾高會支配人



黒河領届出

二二〇〇〇	絹首巻	貳丈	前日
四八〇〇〇	絹シケン	半丈	前日
三三〇〇〇	新	百廿寸	前日
三五〇〇〇	馬	二頭	賣却依生損
二〇〇〇〇	馬車	二台	前日
一五〇〇〇	馬具類		前日
一六一〇〇	馬糧		前日
一五〇〇〇	大鏡	四箇	前日
一〇〇〇〇	大額面	五箇	家主フシノリ預托中紛失ノ類批証第拾五冊証
三〇〇〇	大食卓	壹箇	前日

二〇〇〇	椅子	二脚	前日
三〇〇〇〇	食器入箱食蓋	壹箱	前日
一五〇〇	椅子	三脚	前日
一二〇〇〇	大鹿角	一箇	前日
六六〇〇	薪	廿サシ	前日
一五〇〇〇	甚威屋番具取		前日
五〇〇〇〇	衣袋入篋	壹棹	前日
三〇〇〇〇	高巻物	壹棹	前日
三二二五	了ノ高會損	壹拾株	了ノ高會解散依生損
三二〇〇〇	共益社損	貳拾株	共益社解散依生損



二〇〇〇〇〇〇	露貨	露貨	露貨
一二五四八〇〇	遊報費	遊報費	遊報費
七二五三〇〇	遊報費	遊報費	遊報費
一五〇〇〇〇〇	休業損	休業損	休業損
以下余白			

露貨 露貨 露貨

遊報費 遊報費 遊報費

遊報費 遊報費 遊報費

休業損 休業損 休業損



不
交
不
着

大坂商會主筆並蓋印

(已號用紙)

哈
行
引
揚

音
大
三
言

音
大
三
言

大
坂

領
事
館

二

陸
軍

用

鶴
崎

叔
助

全壹萬壹千八百拾三日券拾
在由十五年

副
中
領

全定額
金四百廿四千五錢也

前
領
事
館
全
額



41025

出
日

外
務
省

外
務
省

5-1 1 1 5

水 大

普通
受第 4464 種
11. 7. 10

社第 廿六 號
救恤審査會

大正拾壹年七月七日

外務大臣 伯爵 内 田 康 哉 殿
大阪府知事 池 松 時

綴込名

救恤金下附申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年四月法律第三十九號及同五月勅令第二百四十七號ニ依
ル救恤金下附申請書提出ニ付本年五月貳日歐普通會第七貳〇號御訓令ニ
係ル訓書添付及進達候

記

本籍地 熊本縣天草郡高濱村甲第九百四番地

現住所 大阪府西成郡今宮町鶴見橋北通壹丁目參百參番地

救恤申請書第 二 號

原簿第 一 二 號

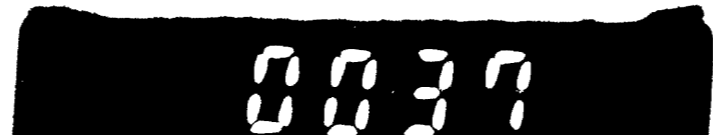
鶴 崎 叔 助

調書

第一勅令第三百四拾七號 第二條各項ノ事項ニ関スル申請書
 一 記述ノ根據ヲ有スモノト認メラルヤ
 別紙申請書ニ添付セル證據書類ニ據テ申請人が或ル期
 間内露路領内ニ於テ商業ヲ営ミ居リテ事實ハ之ヲ認メ得ルモ
 其他ノ記述ガ幾何迄根據ヲ有スヤハ調書ノ方法無之
 第二申請書ニ記載ノ總損害ガ申請者ノ経歴、資産、及信用
 ノ実情ニ照シ穩當ナリト認メラルヤ
 申請人ハ露路領引揚後大正九年十月本籍地ヨリ高田府管内
 ノ現住地ニ移住シタルモノニテナリト申述スルモ、性格等
 之就テモ知ル者ナク又現在ハ洗濯業及ヒ雜化貨商ヲ営ミ居ルモ
 之ガ資金ハ妻ノ実家ヨリ融通ヲ受テ居ルモノニテ本人ハ
 資産トシテ計上スルモノナク有セザル狀況尤テ申請書記載



ノ総損害額ノ果トテ穩當トヤ否ハ推測シ得キ資料 無ク	各第三九記證據書類ヲ添付提出セリ	一本人ヨリ在「ハロワスク」佛教青年團ノ寄附金領收證 電通	一同 「ハロワスク」市在留日本臣民御大典奉祝會領收證 電通	一哈府日本人倶楽部株券電通	一哈府日本人居留民會長ヨリ本人對スル謝状電通 以上
------------------------------	------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------	------------------------------



不貳號

救恤申請書

鶴崎叔助



救恤申請書

鶴崎叔助

一氏名

二年齡

四十八才

三職業

軍事用達業

四本籍

熊本縣天草郡高濱村甲第九百番地

五現住地

大阪府東成郡金堂町鶴見橋北通丁百三十三番地

六引揚又遭難場所

露領江海州ハロラス市ムラビヨルヌス街二番

七引揚又遭難年月日

大正九年三月二十九日

八引揚又遭難前後事情

歐露ニ於ケル政変ニ餘波ハ極東ノ一地矣

哈齊ニ波及シ彼ノ思想ノ激変ハ忽チ社會秩序ヲ紊乱トナリ政治上經濟上各施設ノ根本ヲ破壊セラレタルモ在留外人ニ對シテハ輸送ノ不利不便經濟界ノ不振外生命等ニ關シテハ何等影響スル所ナカリシカ聯合軍



分一也

出兵軍、ウリ、沿線進出トル、過激派、邦人對スル脅威加ハリ
遂ニ生命財產ヲ危険ニ導キ浦潮ト交通杜絶ハ遂ニ大正七年月尼
港避難、餘像ヲナシテ一團ヲ引揚トス

手加減

大正九年二月、黑龍州駐屯軍ノ撤兵、空地居留邦人、引揚、過軍、後
入トナリ、次ニ尼港邦人慘殺セシメ、ト、傳文、哈府、果軍、撤退、噂アリ
加フニ露人、邦人ニ對スル態度ハ極度ニ惡化シ、非賣同盟ヲ起シ、馬車
又ハ使用人等、供給ヲサハ拒絶シ、邦人ニ使用セラル、モノアレハ之ヲ殺戮スル
等形勢、果危危急ニ至リ、茲ニ於テ在留民ハ大會ヲ開クコトニ、固シク生命保全
策トシテ、引揚ニ決シ、哈府駐在帝國領事及日本軍憲、援助依頼、大正
九年三月二十日、二十日、二回、且、僅カニ各自手廻リ、三個ヲ携ヘ、過軍、毒手
ヲ逃レタリ、之ヲ、房ニ、回、引揚トナシ、越、テ、四月五日、武装解除、際、日本軍
ノ用達トシテ、殘留セシ、四五十名、邦人中、七名、彼等、カ、毒手ニ、斃レタリ、若シ

分二也

以下本人

ハ、ハ、ハ

シ、邦人、引揚、一、回、後、ト、タ、リ、ト、セ、ハ、尼、港、以、上、慘、状、ヲ、演、出、セ、シ、ナ、ラ、シ
以、上、七、名、内、實、兄、鶴、崎、軍、七、モ、共、ニ、慘、殺、セ、ラ、レ、テ、ハ、哈、府、引、揚、一、時、浦、潮、ニ、滞、在
ナ、レ、平、穩、ニ、復、ル、ハ、面、ハ、哈、府、ニ、引、揚、ス、豫、定、ナ、リ、シ、モ、兄、軍、七、ノ、慘、殺、セ、ラ、レ、ト、聞
キ、軍、七、妻、ツ、ト、相、談、シ、上、行、通、平、穩、ニ、後、義、姉、ツ、ク、ハ、七、軍、七、ノ、遺、骨、ヲ、尋、ネ
身、入、リ、次、弟、携、帶、帰、國、ス、ベ、ク、小、生、ハ、一、先、ッ、内、地、ニ、歸、リ、テ、七、兄、ノ、遺、産、取、引
等、整理、任、ニ、當、ル、ハ、ク、帰、國、中、四、五、三、月、ハ、哈、府、浦、潮、間、交、通、杜、絶、ナ、シ
六、月、以、降、角、ニ、平、穩、ニ、交、通、ヲ、得、タル、モ、時、既、ニ、モ、兄、ノ、遺、骨、ハ、日、本、海、軍、保、護、ノ
下、ニ、哈、府、ヨ、リ、尼、港、ニ、轉、ジ、日、月、數、十、日、ヲ、經、テ、尼、港、ヨ、リ、浦、潮、ニ、着、漸、ク、十、月
ツ、ク、遺、骨、ヲ、携、ヘ、帰、國、セ、リ、其、間、遺、骨、到、着、次、弟、函、本、ニ、テ、本、葬
ヲ、済、シ、再、渡、航、セ、ン、ト、準備、中、又、ハ、哈、府、ハ、十、月、第、三、回、引、揚、ト、ナ、リ、遺、骨、
ナ、カ、ラ、モ、地、滞、在、ト、ナ、ル

九損害程度

シアリタルヲ引揚ノ前引出サントセシモ種々口實下ニ據ラズ
 タリ帝國移野領事ノ證明書預金通帳ヲ添ヘ凡
 軍七ノ引本シ方ヲ委託セシモ軍七ハ過激派ノタメ後殺
 掠奪セラル當時百円ニ万ニ留メ換算
 十引揚又遭難ノ前其地在リタル期間
 拾五ヶ年
 其地參考トシテ事項

- (1) 現職業 雜價高
- (2) 被害當時家族及使用人数 家族三名使用人四名
- (3) 被害當時毎月取引高 八千五百円
- (4) 被害當時底倉賃等級 二等
- (5) 營業鑑札等級 三等
- (6) 吟府引揚回数 二回

略歴 明治三十三年四月始テ浦潮ニ渡航シ左三十七年十二月日露ノ時局切迫ニ
 避難シメ内地ノ引揚左三十八年三月營口李家丸ニテ日本軍隊支那苦力
 ノ通訳ヲナシ左三十九年七月日露ノ平和克復ニ依リ浦潮ニ渡航シ左三十九年
 四月ハロワスクニ轉シ爾來大正九年三月引揚マテ吟府ニ在留十五ヶ年其間
 大正四年二月ハロワスク在留日人會役負弁ニ當務負ニ撰定セラレ左年
 十月御大典奉祝委員ヲ命セラレ前記弟面ノ引揚後角心大正八年民會
 役員ニ撰定セラレ大正九年三月引揚トシ鶴崎叔セト呼フハ幼少ヨリ通稱ナリ
 右ニ通りニ相違無之候也

大正十一年六月十九日 右申請人 鶴崎叔助

外務大臣伯爵内田康哉殿



附屬
救恤審査會
八二七號

普通
11.7.24

大正拾登年七月貳拾貳日

大阪府知事 池 松

時



外務大臣 伯爵 内 田 康 哉 殿

救恤金下附申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年四月法律第三十九號及同五月勅令第二百四十七號ニ依
ル救恤金下附申請書提出ニ付本年五月貳日歐普通合第七二〇號御訓令ニ
係ル調書添付及進達候

記

本籍 大阪市南區笠屋町拾壹番地

救恤申請書
加四號

住所 同

所

禁印六一號

木下 茂太郎

大阪府

手交
市麦茶生券、引揚人

調書

第一勅令第二百四十七號第二條各項ノ事項ニ関スル申請書ノ記述ハ根據ヲ有スルモト認メラルルヤ

本人リ別紙申請書ニ記載セル如ク露領「チタ」市所在ノ二田商店ノ雇人トシテ或ル期間同地ニ居住セルハ事實ト認メラルルモ本人カ帰朝セルハ大正六年五月ナルニ西北利地方ノ事變ハ大正七年ニ入り發生セシモノニシテ其間半々年以上ノ期間ヲ存スルニ拘ハラズ遺留財産ノ保全ニ関シ何等ノ方法ヲモ講スルコトナク其儘地棄セシガ如キハ多少疑ハシキ點ナキニ非ハルモ本人ハ

事變ノ發生ハ大正七年ノ春ナリシモ其ノ帰朝後幾何モナク同地方ハ不穩ノ狀勢ニ陥リ特ニ鐵道沿線ハ危險甚タシク再渡航ハ到底不可能ト旨同地ヨリ通知ニ接シタルヲ以テ止ムヲ得ス渡航ヲ断念シ遺留品ノ如キモ其儘拋棄セシ旨申立ツルモ果シテ相凌ナキヤ否ハ調査ノ方法無之

大阪府

第二申請書記載ノ損害總額カ申請者ノ経歴資産及信用ノ實狀ニ照シ穩當ナリト思考セラルルヤ

本人ハ大正六年八月愛媛縣越智郡子削村ヨリ大阪市ニ轉住シテ時計商ヲ営ミ現在ニ至ルモノニシテ高品其他ノ資産約壹千円ヲ有シ轉住後日尚ホ浅キ為メ同業者間其他ノ信用ハ石子カラザルモ性質ハ温厚ニシテ素行不良ノ聞ナレ而シテ申請書記載ノ損害額ノ内二田商店(配當積立金)壹千五百円他日契約期限ニ至リ同商店ヨリ受領スヘキモノニシテ會々同商店モ亦損害ヲ被リタル為ノ一時本人ニ

注意

注意



辨濟スベキ資力ナキニ至リシモノトスルモ之ヲ以テ談積立
金ヲ本人カ引揚ノ為メ直接被リタル損害トシテ計上
スルハ穩當ナラスト認メラル次ニ銀行預金ハ通帳ヲ
遺留亡失セシ由ナルヲ以テ果シテ申請書記載額ノ
預金ヲ為シ居リシ否確ムヘキ方法無之其他ノ損害
類ハ本人ノ經歷資産等ノ實情ニ照シ別段不穩
當ノ嫌ナキモノ如シ

以上

大 阪 府

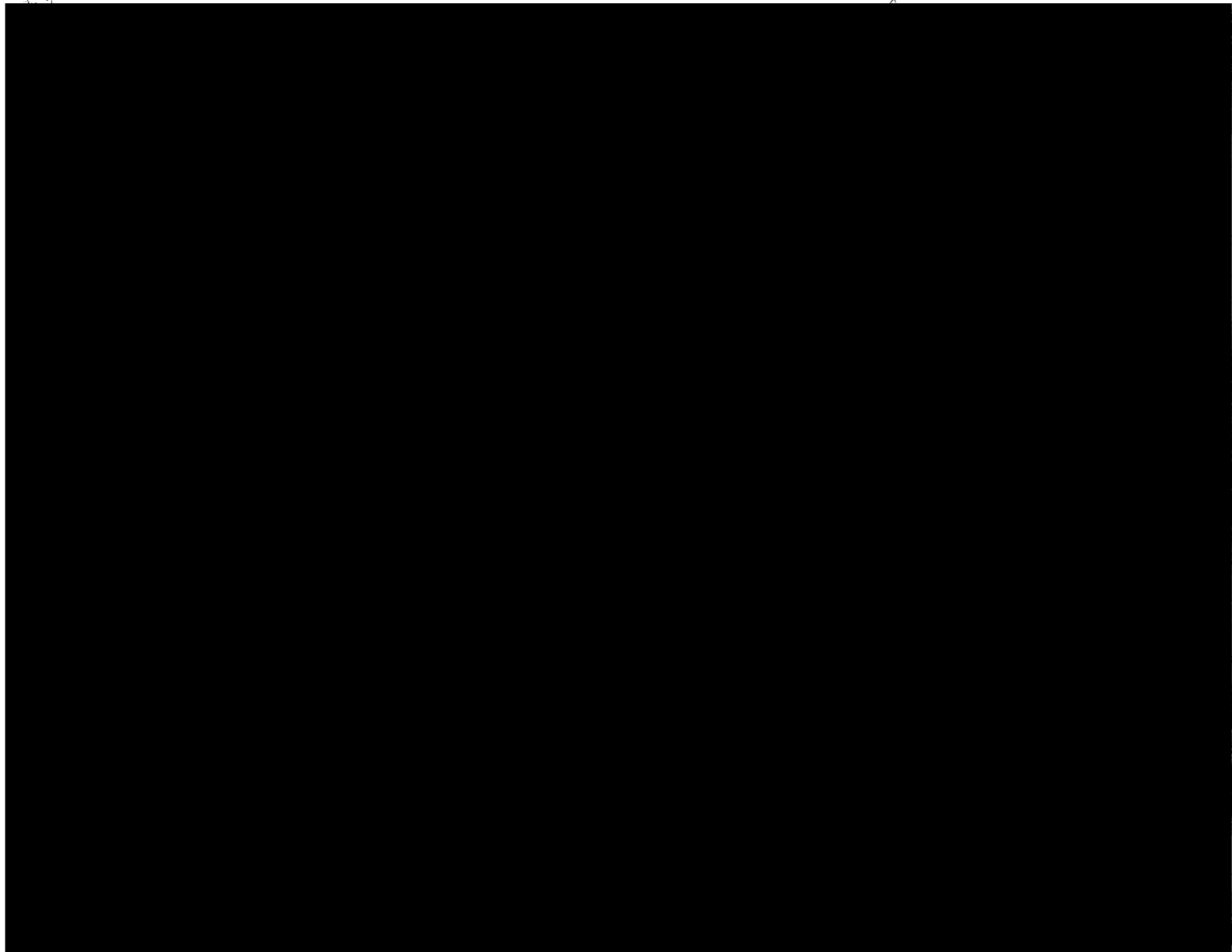
予實...
 在...
 不...
 予實...

大正七年... 申精者... 木下茂吉郎...
 一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、



一 金五百兩	知事官銀行、預金
一 金七兩	防集用毛裏外套 一枚
一 金七兩	防集用帽子 手袋 靴 各二個
一 金七兩	トランプ 式個
一 金七兩	牛提金箱
一 金七兩	毛布 参考
一 金七兩	洋服参考書 其外種品
一 金七兩	日本服 式箱
一 金七兩	帽子 靴 雜品
合計金 五百八拾兩	
五、遺雜前後使費者知事滞年期限	
明治四十年三月 大正七年五月迄	
六、音類	
一 次紙券一枚	許可券号、八四五年十月九日迄
一 許可證 一通	券、再下附之、初紙、八四五年十月
一 知事官證 一枚	後員加爾州、軍務知事許可證
一 知事官證 一枚	二、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	三、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	四、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	五、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	六、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	七、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	八、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	九、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十一、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十二、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十三、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十四、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十五、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十六、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十七、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十八、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	十九、田舎知事、田舎
一 知事官證 一枚	二十、田舎知事、田舎





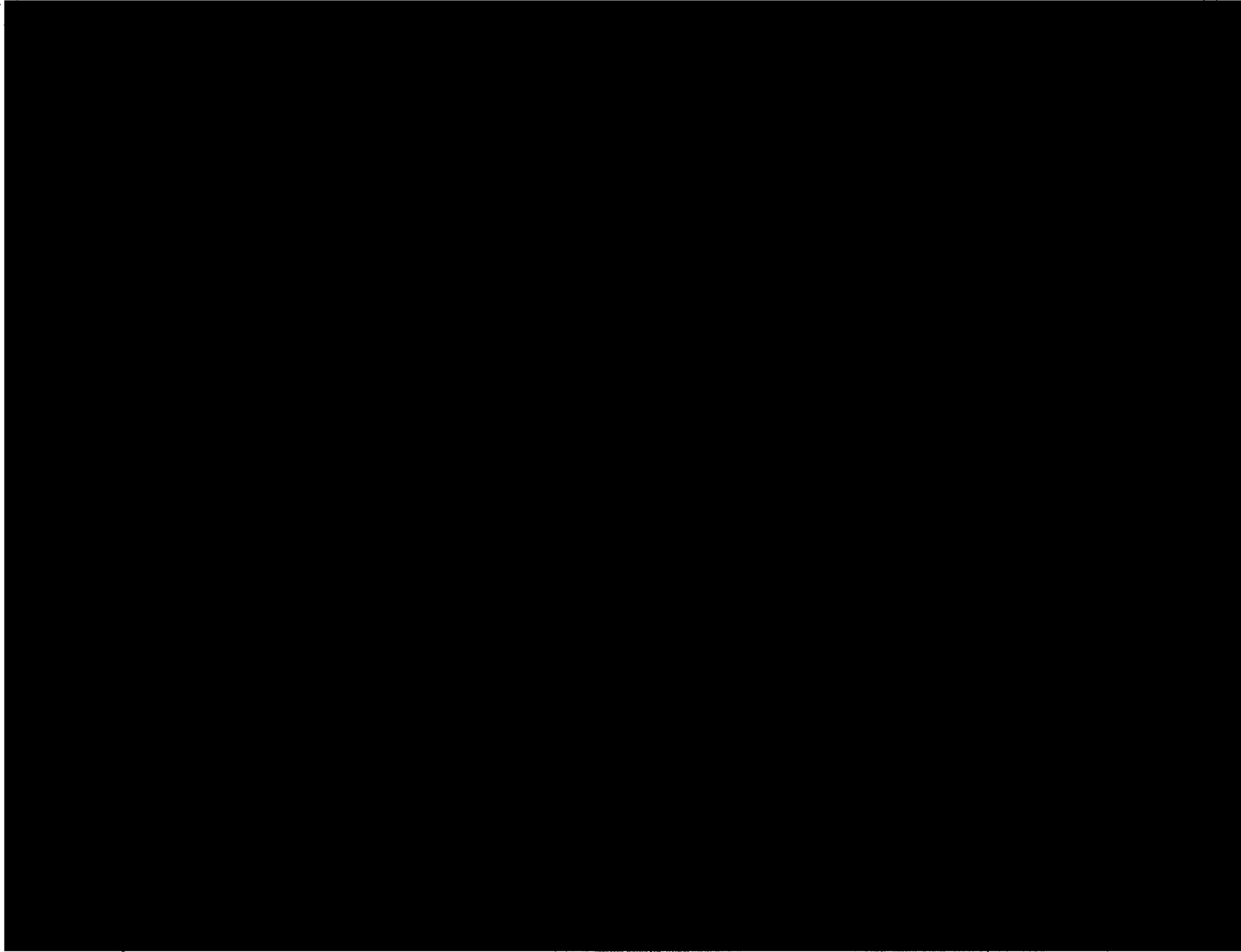
1202K

合 校

寓 浮

5-1 1 1 5

0050



5-1 1 1 5

0051

3210
普通
11. 8. 7

附
類
添
附
救
恤
審
査
會

社第八三四號

大正拾壹年八月四日

大阪府知事 池松時

外務大臣伯爵 内田康哉 殿

救恤金下付申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年法律第三九號及勅令第二百四十七號ニ依ル救恤金下付

申請書提出ニ付別紙調書添付及進達候

記

本籍地 兵庫縣三原郡福良町丙ノ一番地

現住地 大阪府堺市大濱中附洲新田上村保二方

正 木 末 八 郎

大阪府

角
保

手
字
保
留
印
紙

綴込名

調書

一申請人ハ大正八年八月露領「ハバロフスク」市ニ渡航
シ同地ニ駐屯セル第十四師團ノ用達ヲ為シ同九
年十月師團ノ引揚ト共ニ帰朝ニ同十年二月ヨリ
大阪市東區高麗橋一丁目大阪証券交換所事
務員ニ雇ハレ居リシカ同年十月ヨリ堺市中附洲
新田上村保ニ経営・可鍛鑄工所事務員ニ轉シ
現在ニ至レルモノニシテ性質ハ温順ニシテ素行マ不良ノ
聞ナク経営者等ニモ相當信用アリ但資産ヲ
有セス

大阪府

前記ノ事情ニ依リ思考スルニ申請人カ大正八年「ハバ
ロフスク」市ニ渡航シ事変發生ノ為ノ引揚ニ際シ多
少ノ損害ヲ被リタルハ事實ナリト認メラレモ申請
書記載ノ總損害額カ果シテ穩當ナリヤ否ヤハ確
ノ得ヘキ何等ノ資料ナキヲ以テ明瞭ナラス



抄
号

甲			正木末八郎		救恤申請書			
---	--	--	-------	--	-------	--	--	--

5-1 1 1 5

0056

救恤申請書	
一氏名	正木末八郎
二年齢	二十八才
三職業	陸軍用連高
四本籍	兵庫縣三原郡福良町丙一番地
五現住地	大阪府堺市大濱中附洲新田 上村保ニ方
六引揚場所	露領ハロフスウチゴレフスカヤ街三五
七引揚年月日	大正九年拾月拾七日

[Blank grid area]									
-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

八引揚前所事情

大正九年九月拾九日、空如哈府我駐屯軍撤
兵ノ宣言、軍司令官ニ依リ、其表セラレタテ
ニ其日ハ心ヲスナシ帝國領事館告示
引揚ヲ以テ左ノ告示ヲ與ヘラレタリ
「今般外務大臣ヨリ、右方面、本邦居留民中
自己ノ責任ニ於テ強クテ残留ヲ希望スル
者ヲ除ク外、總テ引揚準備ヲ整ヘシメ
日本軍撤兵前ニ浦潮斯儘ニ引揚ケル
柁措置アルヘシト」電報ニ接シタリト。

四十一

東京非紙在印行

一面邦人ニ對スル露國人ノ感情ハ曰ニ悪ク
邦人ヲ見ルニ敗者如クセリ、哈府駐在ノ
帝國領事館及日本軍寓ノ援助ニ依リ
大正九年拾月七日及十二日ノ兩回ニ亘リ我ガ
居留民ハ殆ド全部引揚ケタリ然レ自食
其際引揚ケ酒保處ノ納入及馬車人夫ノ
給與諸員ヲナシ居リ酒保殘品尙港第
録園在リコレガ輸送ヲ功十四師團一
經理部ニ請願セルニ經理部撤退際ニ
同行引揚ケ者ニトナリ使用人ノ

四



十日引揚分也自今八殘留して司令部撤
退ニ必要ナル馬車及人妻備給ヲテ師團
経理部ノ引揚期即チ大正九年十月十七日
引揚セリ

九、損害、種款、程度、價格及事由、

換幣總額

一、金貳拾貳百九拾四圓也

内譯

一、金貳拾九百四拾四圓也

大正八年(自七月十四日師團経理部附

第十行

東島井林庄印行

御田島人トシテ又貿易品大目公司代理下
シテ哈府ニ出張シ引揚キ就業中其廿九年
八月初ノ師團防禦陣地構成用及冬官
準備用トシテ経理部より命ヲ受テ雜木
丸支末口五才より八才長サニ内ハモ彦所
五百才ヲ哈府ポルトヤコフスカヤ街ニ全
分植ナル者ヨリ買受ケタリ、内四百貳拾才ハ
納入セルモ殘余彦所ハ拾才ハ師團撤退ノ
爲メ不用トナリタリ、依テ極力他(旁部)ニ
才奔走セルモ日本軍撤退ト同事ニ未だ揮

中

中



勝手十言外
高更上理ノ様

別

一、	信子宅知セシタメ、代價ヲ拂ヒテ買ハント スルノ無ク又輸送スルニモ貨車ノ餘額 無キタメ止ムナク、アムル河畔ニ載積 セリ、放棄ス、此單據在在、金庫内 ハ拾銭此合計金也
二、	金庫有車格圍也
三、	板橋時中團経理部ノ馬車人夫、拾銭 諸員ナシ居ケシタメ他ノ居留民ト共ニ 引揚ガシ得テ残留シテ司令部及 経理部ノ搬運荷物全部ノ運搬ニ

甲十行

東京市紙店印行

一、	從事セリタメ自己ノ家具什器等ノ搬 出、概テ得テ此ノ残額ハ危險ニシテ 又貨車兩台、見込ナク止ム無ク放 棄セリ家具什器ノ最少見積合計金也
十、	在留期間、老年四ヶ月、 其各考事項、
一、	現職業、会社員、
二、	被害當時ノ家族及使用人数 自己及使用人ノ名、
三、	被害當時ノ民会費等級、

甲



二等。

四畧歴

吉入年八月廿日 敦塔警察署に於て海外
旅行者ノ下附ヲ得テ渡露ス、土日ハハ
口スル市着、邦十四師團經理部附快用
少人トシテ重ニ酒保給ノ物入ニ就事セリ
吉九年三月廿日 御屋ニ在ルト人ノ父ノ
死去、叔親族ヨリ爾敷ニテ知悉セリ元
居滿氏引揚取トテ如何トモ成難ク只々
カカニ親族ニテ後事ヲ托スル事成事出シ

第十

華島井映吉印行

得タルノ之、二月俄黑龍州駐屯軍ノ撤兵
同地居滿邦人、引揚ガハ赤軍、侵入トナリ
吹テテ尾港邦人慘殺セラレタリト、噂
又哈府日本軍撤退ノ噂アリ加ツルニ露
人、邦人ニ對スル怨讐ハ極深ニ惡化シ
非露同盟ヲ起シ馬車又ハ鉄甲人等ノ供
給ヲサハ拒絶シ邦人ニ使甲セラレル者アハ
之ヲ殺戮スル等形勢ノ危急ハ甚シク
茲ニ於テ 居滿氏ハ大会ヲ開キ事々
生命保全ノ策トシテ引揚ニ法シ哈府駐在

中

甲二十行

帝國領事及日本軍需ノ援助ニ依リたる
 九年三月二十六日及二十九日二回三回り僥
 カニ各自ノ牛馬ノ三回ヲ携ヘ過軍ノ毒ヲ
 逝シタリ自今ハ酒保長隊存セルタノ残内
 シテ酒保長隊ノ從事セリ。越至
 四月廿日過軍ニ對スル武装解除ノ際
 自今同種ノ軍ノ用達トシテ残内セル軍
 七名許リノ邦人中七名ハ皆殺サレタリ
 自今又ノ幸住居ガ過軍海軍司令部
 ト我軍砲兵隊ノ中向ニ在リシタリ

奉天非鉄店印行

砲彈ノ命中セルモノ三彈、中銃彈ハ
 無數ニ飛来シ住家一帯燐ノ巢ノ如ク
 ナリ此時倭軍ノ横田龍鳳ハ右腕部
 貫通銃創ヲ受ケ自今幸ハ幸ウテ
 身ヲ逃テ逝シタリ九月我軍撤兵宣
 言ハ邦人ニ對スル露國人ノ威怖ハ
 刻々險悪ニナリ殊ニ馬車ノ夫々路
 諸員ヲナセル自今トシテハ多大ノ迫害ヲ
 受ケタリ然シ其幸ニシテ大過ナリ經理
 部及司令部ノ軍需長酒保長等ノ前

甲



物列車積込迄ノ輸送ヲ終ヘタリ浦潮
 斯德停車場構内滞留中及浦潮
 斯德乘船ノ際ノ輸送モ自分ノ手ニ於テ
 請負ナセリ大正九年十月廿一日迄
 ヲ残存兩俣迄ノ返附ヲ受ケ師團用
 達人ヲ解セリ、殊に整理ニ望ミ
 拾年二月迄掛リ三月ヨリ九月末日迄
 大阪市東区内久宝寺町四丁目ノ其長枝
 方ニ寄留シテ東区高麗橋一丁目ノ其
 左高麗橋寄留所ハ凡テ五回以上

（甲）十行

墨田区役所印

公債様式現物業、松田教枝、其ノ勤務ニ
 大正拾年拾月廿日堀市大港中附洲
 新内上村保ニ方ニ寄留、大正拾年堀市
 東區町新物業、上村可敬、其
 勤工所ニ事務名トシテ勤務現在ニ
 至ル
 其添附参考書類、

在ノ通ニ相違無之候也



引揚
武市
九年二月

78

出口
1315.08

不吉
不動
寺

在	大阪	領事館第六	貿易	澤田愛次郎
申請額	金八千七百五拾九圓拾五	願金高		
備考	御里ニ在リテ			
前申請額	資産約六千五百有リ相立信用アリト			
査定額	千四百三十七圓			
納付書	納付書			

大阪商會正定額見解

壹巴號川紙

外務省

1929 88

5-1115



附屬書類添附

救恤審査會

社第八八〇號

大正拾壹年八月九日

大阪府知事 池 松

時

外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿



救恤金下付申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年四月法律第三十九號同五月勅令第二百四十七號ニ依ル
救恤金下付申請書提出ニ付別紙調書添付及進達候

追テ申請書ニ添付セル證據書類中「アムウル商會委託預證」「露支人
預リ證」「巴網在庫證」ノ三通ハ申請書ニ記載セル如ク阪本秀次郎ト
間ニ損害賠償ニ關スル訴訟中ニシテ之カ證據品トシテ裁判所へ提出
要スルヲ以テ審査濟ノ上ハ可成速ニ返戻ヲ受ケ度旨特ニ申出候間御
知相成度候

大辨



記

本籍 大阪府中河内郡三野郷村大字上之島九拾番屋敷
住所 同上

澤 田 愛 次 郎

調書

一、申請人明治三十七年四月村會議員ニ選舉セラレ
同四十年四月任期満了大正三年五月再選セラレ現在
*至ル大正七年六月豚毛買入レ及ヒ日本雜貨販賣ノ
為ノ哈尔滨ニ營業所ヲ設ケ大正八年七月同地ヨリ
露領、ブラコウ、シナ、ウスクニ出張營業中西比理事変
ノ為ノ哈尔滨ニ引揚ケ約六ヶ月後事変が容易ニ鎮
靜ノ見込ナキヲ遂ニ帰朝セシモノニシテ性質温順素行
善良村會議員區長等ノ公職ニ在リテ居村ニ相當ノ
信用アリ資産ハ動産不動産ヲ合セラ約六萬圓
ヲ所有セリ

前記ノ事情ヲ綜合シテ考察スルニ申請書ノ記述
ハ相當根據アルモノト認メラレ又損害総價額モ其ノ
信用及ヒ資産ノ實情ニ照シテ別ニ不穩當ノ嫌ナキモ
ノ、如シ

大 阪 府



普通郵便
14.10.29

附屬書類添附

取寄書類返還書

御中
御手紙
御返書

右當事者間ノ大正十年(ワ)第三三五號委任状返還
事件ニ付取寄セタル左記ノ書類及返還候也

大正十年十月十九日

大阪地方法院第四民事部

若手油券

外務省御中

目録

一 委任状返還申請書 九頁

印紙四六

5-1 1 1 5

0058

大號

碩書

大政府中河内郡三陸郡村大
上之島九拾番屋敷



澤田慶次郎

露國改定及心西比利亞有變、為損害ヲ被ル
ル者救恤ニ關スル大正拾壹年四月拾貳日公布法律第
九號并ニ大正拾壹年四月拾貳日公布勅令第貳百四
拾七號ニ依リ損害申請書ヲ提出仕候間何卒
御給儀之上御救恤相成度此般奉請致矣

大正拾壹年七月 日

右

澤田慶次郎

外務大臣伯爵内田康哉殿

村川印行

付

以下申請書
お送り願ひ
す

大正拾壹年七月 日

枚恤金下附申請書

申請人

澤田愛次郎

(額川印)



第老	澤田愛次郎
氏名	澤田愛次郎
年齢	五十五年
職業	震支國産豚毛商
系籍地	大阪府中河内郡三野郷村大字上之島九十番地
現住所	同所
第貳申請人ニ物品販賣ヲ委託シ(別記損失明細書) 損 害ヲ被リタル者ノ氏名其他	坂本秀次郎
氏名	坂本秀次郎
年齢	不明
職業	農業兼銅製造
系籍地	大阪府河内郡堅下村大字平野
現住所	左所
申請者ト委託者ノ關係	坂本内澤書附記ノ 一部物品ハ善意上賣却方ヲ坂本秀次郎 ヨリ委託サレタルモノナリ目下委託物返還請求 ヲ受ケ大正十四年十二月附大阪地方裁判所(第二三 五号)訴訟中
第参	
引揚遭難場所	徳領ブラコウエンスク市



第四

引揚 年月日 大正九年五月

第五

引揚遭難前後ノ事情

大正七年六月七滿洲哈爾濱モストウヤ街八号地ニ於テ
 日本新貨及露支産豚毛日露貿易澤田出張所ヲ
 設ケ申請人長男澤田憲造ヲ担任者トシテ發展
 ヲ計リタル辰大正八年七月武市ヨリ幣店出張所ニ來リ
 シ熊本縣天草郡志岐村字上津濱江ノ高田又三ハ
 武市ヨリ雜貨多數論文ヲ得タル旨々武市ニハ

豚毛有望ナリト申來リ因テ發展ヲ企圖シニ
 雜貨店ヲ運送店ニ此ニ輸送スルトモ澤田憲造高
 田又三ノ兩名ヲブラウエニシテスクリ市ニ出張行商ナ
 カレタルモノナリ前記商品ヲ同市巴組及アムール
 商會、露支人經營ノ東方商務公司ニ委託保管ヲシ
 高田又三ヲ滞在商務ノ任ニ當ラシメ澤田憲造ハ
 露領武市セイスカヤ街ブラウエホテルノ大至急ノ注文
 ヲ受ケタルヲ以テ大正八年拾月上旬哈爾濱ニ出張
 所歸還セリ然ル處大正九年二月黑龍洲ヨリ軍隊
 ノ撤去ニテ政府ノ引揚命令ニ依リニ商務担当者

(利川印行)

ハ爾時
 高田又三
 澤田憲造
 武市又三
 大正九年
 五月

10

10
初

40

尾錠	三ノ六 三ノ六	二ノ一	八、〇〇	金	
金	三ノ二 三ノ二	二ノ二	四、四〇〇	金	
貝	三ノ八 三ノ八	九ノ三	一、四二五	金	
貝	三ノ六 三ノ六	四ノ三	六、〇〇〇	金	坂本資治ノ書帳
貝	三ノ四 三ノ四	五ノ三	六、〇〇〇	金	坂本資治ノ書帳
貝	三ノ六 三ノ六	四ノ三	六、四〇〇	金	坂本資治ノ書帳
手袋	五ノ一	二〇〇	一〇〇、〇〇〇	金	申請人ノモノ
領収証	三ノ六 三ノ六	十ノ三	一、三〇〇、〇〇〇	金	ブラジルのホテル、注文品在義入 大坂今宮橋本屋行印刷製
積本書	三ノ六	十ノ三	一、〇〇〇、〇〇〇	金	
宿帳	三ノ六	十ノ三	一、〇〇〇、〇〇〇	金	ブラジルのホテル在義入 大坂今宮橋本屋行
備考	三ノ六	十ノ三	一、〇〇〇、〇〇〇	金	備考 本江裁領収証清和書宿帳渡模本を徳 ブラジルのホテル在義入 義入ノ注文ナルヲ以テ吟詠ノ券ヨリ、本市ニ發送供準備中 本市引揚メナリ、好何トモ為ス能ハズ吟詠ノ券ニ於テ 抛棄セリ、 引揚ニ周リ被リタル出張員二人ノ月収控等 大正九年 九月 全四百圓

（原川甲）



廿七

参考トスマキ 証状

東洋通

○

一 大正八年九月二十九日附アル高倉石崎参託品取証 老通

一 大正八年九月二十九日附露支人取リ証書 老通

一 大正九年三月三十日附巴組取リ尔在庫証書 老通

一 露領通関税受取証書 老通

一 支那関税受取証書 老通

右規出書額ノ内 アル高倉石崎取証、露支人取リ

証書、巴組在庫証書、三通ハ前記第ニ及ニ記述

ノ通り取本参照印ト損害賠償ニ関スル裁判事件

存証據書類トシテ裁判所ニ提出スルモノニ其間

清査査ノ上ハ直ニ還付相成度矣

廿八

引揚前行高人在留期間

申請人、長男澤田憲造ハ吟爾家ニ於テ従前

ヨリ活動ヤリ居タリシモ 大正七年九月十六日吟爾家總

領事官傳藤崎武敏ノ旅行受取ヲ受テタリ

其期同四ヶ年、高田又三ハ在留期間於参々年

旅行受取ヲ受テ執貨行商ニ従事セシガ前記

ノ損害ニ依リ悲憤ナシク状態ニ陥リ居レリ次ニ

(村川印行)

裁判
判決
後
何
届
不
明
コ
リ

巴都ノ小宮山民トカリ、武市駐在平塚領事
ノ許ニ澤田勝丈宛テノ品物損壊ノ届出有之趣キ
然レニ澤田勝丈ハ通称ニテ本名ハ澤田憲造ナリ
申請人ガ其後行商ヲ経續ニ得ルニ於テハ地満州ヲ
西北利便ニ巨リテ相寄荒原ヲ逐ガ漸次収奪ヲ増大
スルコトヲ得タルト余ハ斯ノ如キ大打撃ヲ被リ以テ
リノ努力モ殆ド水泡ニ歸シ悲憤ノ境ニ陥リタル
由テニ同行者澤田海ノ上救恤相成度矣
大正拾二年七月一日

右

澤田愛次郎

外務大臣伯耆内田康哉殿

(村川印)



不不微
勤善在
寺中寺

引揚
九
引揚



79

一 救世軍 救世軍 救世軍 救世軍

江島引揚

九 (已 號 用 紙)

在

大坂府

領事館 第七

特務隊員 山口曲豆

後 藤田 藤田 藤田

一年花酒

申請額

金八千五百圓也

藤田 藤田 藤田

一年花酒

藤田 藤田 藤田

副申請

全額額

なし

(江島引揚)

審査ノ結果救恤額ノ
認め可キモノ無シ

前中陸軍少佐伊藤人ハ病氣ノ多ク任多引揚せん
加ク何年似夏若ク引揚ノ多ク被床マソムモノト
引揚せん

外務省

5-1115



附屬書類添付

救恤審査會

社第九〇一號

大正拾壹年七月貳拾七日

孫子人

大阪府知事 池

松

外務大臣 伯爵 内 田 康 哉 殿

救恤金下附申請書進達ノ件

左記ノ者ヨリ本年四月法律第三十九號及同五月勅令第二百四十七號ニ依ル
救恤金下附申請書提出ニ付別記調書添付及進達候

記

本 籍 奈良縣奈良市高畑町貳百八拾五番地
現住所 大阪府大阪市北區綿屋町貳拾壹番地大曾根兼吉方

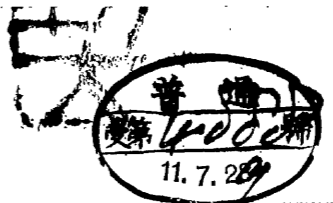
山 口 豊 一

大 阪 府

47

救申請書一七號

山 口 豊 一



調書

一、本々明治卅二年本籍地出奔滿州に渡航し後露領知多中
に入り同地居住中事変發生を爲し大正九年八月滿州引揚
げ尔來長春及吉林等の約十年間滞在し本年九月帰朝
大阪市北區錦屋町舟屋旅館にト大曾根英吉方滞居
し同所ヲ住所ト定メ目下當府の堺市大濱旅館敷料理店
左辰方料理人の雇は居し而シテ現在ハ毫モ資産ナシ且其ハ
家族ヲ單身各所ヲ轉々し當府下來住後僅ニ一月ノ過ナリ
以テ其經歷性行信用等就テモ當地方ニ於テハ凡ソ知ル者
ナク隨テ申請書ニ記述ノ根據ヲ有スヤ又損害價額ハ信
憑スルニ足ルヤ否ハ調査ノ方法無之

大阪府

一、知多市日本居留民會長發行分課金納付通知書同式通
知
一、知多市日米居住民會長ノ臨時評會宛會通知書 志通
一、在長春向井安光ノ申請人ノ宛タル端書 志通
以上



上願書

原稿 奉 示 事 加 町 三 五 五 号 地

二十日 庄主 志 井 宗 山 口 康

山口 康

右之右人 坂下 隆 改 夏 及 西 比 利 亞 軍 事 費 之 為 ノ 損
害 ヲ 蒙 リ 多 ン 者 二 對 シ 救 恤 金 下 附 口 口 口 由 大 正 十 二 年
五 月 二 日 官 報 二 初 令 第 二 四 七 号 ヲ 奉 賜 ン 事 由 大 正 十 二 年
左 以 願 申 也

大正十一年七月廿日



申請人

山口 康

外務大臣

伯内尉内田康卦殿



一 申請人 山口 謙五
 商業 明治三十一年月

本籍奈良縣奈良市高畑町
 字 平戸 主

現住地大阪府北區錦屋町
 大曾根 兼吉

二 被害者申請人 其者ナリ

三 引揚遺難地 後貝加爾州知事市
 引揚遺難地

四 引揚遺難 大正九年六月
 病氣 遺難

五 引揚遺難前後 事情 明治四十四年
 引揚遺難 遺難

六 引揚遺難 遺難 遺難 遺難
 引揚遺難 遺難 遺難 遺難

引揚遺難 遺難 遺難 遺難
 引揚遺難 遺難 遺難 遺難

?

場合ニ入リ居テ其ノ時上ルノ事 居テ其時在る民令ニ達シテ損 損出ナシト置キタル事ナリ		六損害種類程度 穀屋修繕 糶米作 大豆油 小食 諸道具 食料品 廣撤未取 家履 雑費		價額事由 二百五十元 二百元 六百元 六百五十元 二百五十元 百五十元 七十五元 七十五元 七十五元		合計 四百拾五元	
七在任期間大正八年七月 大正九年六月拾壹日		八 長室大博士 診断ニテ軍隊ノ病院列車ニテ護送 此項ノ人混雜列ノ事為ノ僻難民ノ病院列車ノ無キ 者ニ郵送ヤリシ事弱老ト為吟爾ヨリ一行ト分シ		何分モ重體ニテ斷固軍医部 五軒團軍医部		咳爾泰上送ニテ 奉天ノ野病院ニテ 十四日 十三日	

奉天ニ行キ余偏ノ病院ニテ四ノ月於テ入院致シ三
元ノ身体ニテリシ故ニ身一ツヲ持テ歸リシ譯
者ニ存古トモテ抑々此ノ民會報ト公認金ノ領収
書トヲ添付致シマス

右 申請者

山口達

大正拾陸年七月廿日

外務大臣

伯野内田康哉殿

引揚 吟所 九年三月

80

山口

徵吉 不着中 不動寺

在	大坂府 八	申請者	（被價査會品査査定額具書）
申請額	金七千八百八拾九日也	倉屋業 鶴崎 一の	
備考		在 白 三 年	
副申請			
査定額	金 叁 百 貳 拾 五 日 也		

前中流書下

外務省

左已號用紙

5-1115



附屬書類添付

救恤審査會

第九〇七號

大正拾壹年七月貳拾五日

綴込名

おし

大阪府知事 池 松

時

外務大臣伯爵

内 田 康 哉 殿

時



救恤金下付申請書進達之件

左記之者ヨリ本年四月法律第三十九號及同五月勅令第二百四十七號ニ依
ル救恤金下付申請書提出ニ付別記調書添付及進達候

記

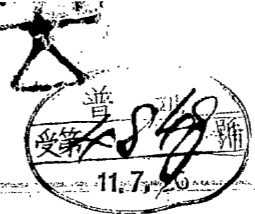
本 籍 熊本縣天草郡高濱村甲第九百四番地

現住地 大阪府西成郡今宮町鶴見橋北通一丁目三百二番地

鶴 崎 の

救恤申請書

届書





大坂府

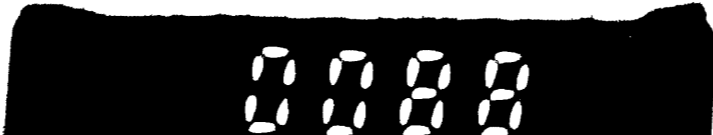
初二年

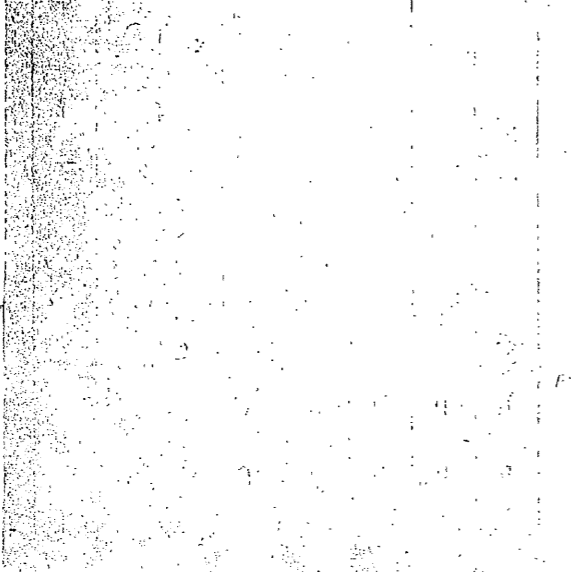
参照

調

書

一 本申請人ハ去ル七月六日社第七六六號ヲ以テ申請書ヲ進達セシ當
 府西成郡今宮町鶴見橋北通一丁目鶴崎叔助ノ妻ニシテ目下夫叔助ト共
 ニ洗濯業ノ傍ヲ雜貨商ヲ營ミ居レリ隨テ其ノ資産及信用ノ實情等總テ
 前記鶴崎叔助ノ申請書ニ添付進達セシ調書ニ記載セシ處ト同一ナルヲ
 以テ本件ハ彼是併合シテ御審査相成度





311

救恤申請書

鶴崎の



5-1 1 1 5



第八

表 過 經

月	月	月	月	月	月	月	月
日	日	日	日	日	日	日	日
							接受

香
鶴崎の



救恤申請書

一 氏名

鶴崎 一の

二 年 齡

三十才

三 職 業

貸席業

四 本 籍

熊本縣天草郡高濱村甲第九百四番地

五 現 住 地

大阪府東成郡金堂町鶴見橋北通三百二番地

六 引揚又遭難場所

露領沿海州ハバロフスク市イルタウツスカヤ街五番

七 引揚又遭難年月日

大正九年三月二十九日

八 引揚又遭難前後事情

歐露ニ於ケル政変、餘波ハ極東ノ一地矣

吟府ニモ波及シ彼ノ悪想ノ激變ハ忽チ社會秩序ノ奈乱トナリ
政治上經濟工ノ各施設ハ根本ヨリ破壊セラレタルモ在留邦人ニ
對シテハ輸送ノ不利不便經濟界ノ不振、外生命等ニ關シテハ

三才の

何等影響スル所ナカリシカ聯合軍出兵皇軍ノ「ウスリ」昭線
 進出トナルヤ過激派ノ邦人ニ對スル脅威加ハリ遂ニ生命財產
 ヲ危險ニ導キ浦潮トノ交通杜絶ハ遂ニ大正七年月尼港又ハ武
 市ニ避難ノ餘儀ナキニ至ラシメタリ之レ第一回ノ引揚トス
 大正九年二月我黑龍州駐屯軍ノ撤兵同地居留邦人ノ引揚ハ過軍
 ノ侵入トナリ次イテ尼港邦人慘殺セラレタリトノ噂又哈府日本軍
 撤退ノ噂アリ如フルニ露人ノ邦人ニ對スル態度ハ極度ニ惡化シ
 非賣同盟ヲ起シ馬車又ハ使用人等ノ供給ヲサヘ拒絶シ邦人ニ
 對シテ使用セラレ、モノアレバ之レヲ殺戮スル等形勢、危急ハ來レリ
 茲ニ於テ在留民ハ大會ヲ開クコト三回生命保全ノ策トシテ
 引揚ニ決シ哈府駐在帝國領事及ヒ日本軍憲ノ援助ニ依リ
 大正九年三月二十六日二十九日、二回ニ亙リ僅カニ各自手廻リ三個

ヲ獲ハ過軍ノ毒手ヲ逃レタリ之レ第二回ノ引揚トナス越ヘテ四月
 五日武裝解除ノ際日本軍用達トシテ残留セシ四五十名ノ邦人
 中七名ハ被擧ノ毒手ニ斃レ其内兄軍七モ慘殺セラレタリ若シ
 邦人ノ引揚一旬ヲ後レタリトセバ尼港以上ノ慘状ヲ演出セシヤラン
九損害ノ程度 七千八百八拾九円也 損害總高

損害種類	損害價格	損害事由
造作費	二二〇〇〇	大正七年第一回尼港避難後五年九月ニ至リ皇軍ハ哈
家債敷金	十千〇〇〇	府駐屯トナルヤ日本軍憲ト下ニ生命財產ノ安全ト思ヒ「ハロフス」
電話權利料金	小〇〇〇	市「イルク」カヤ街五番地ヲ露國人「ワシリエ」ヨリ家債六月
家具並食用食器類	九四〇〇	分ニ對スル上記敷金ヲ「シ」借リ度ケ尙電話番號四百五
薪十三クボ	六五〇〇	十番番ヲ電話料金トモ買ヒ度ケ密閉二十炊事場廣間
麥粉砂糖干物類	三三〇〇	「被擧」(「チカ」)六以外「ハ」チ入等上記造作費ヲ枚ニ炊



10
10
10

石油五箱大洋燈	四八六	〇〇〇	事用家具食品椅子二十五脚寢臺三十六小テトル三十四据
味噌漬物	四七二	〇〇〇	ハナテ營業シツル柘栲大正九年三月二十九日突然在留民
醬油十一樽	一三二	〇〇〇	引揚、餘儀ナキニ至リ平素多人数、タメト積物輸送
白米二十三俵	七五九	〇〇〇	不便、タメ隨時買ヒホノ得サルタメ上記、食料品買

置、マ、時日猶豫ナク引揚トナリ多人数、荷物整理ノ
 タメ壯殺セラレ物品、枚賣セシ連サハナク当時兄弟七
 ハ軍事用運ノタメ哈府帝國臨時海軍派遣隊ト
 同時引揚ノ豫定ニテ残留セシヲ以テ上記、物品全部
 ト敷金、領收證トヲ兄弟七、託シ敷金、文書ト物品、整
 理方ヲ委託シテ引揚タルニ不幸四月五日ノ事變ニ際シ軍七
 ハ過激派、タメ慘殺セラレ金品、掠奪セラレ書類、残ル
 モノナク悉ク損害ヲ受ケシモノナリ

十引揚又ハ遭難前其地ニ在リタル期間

七ヶ年

其他参考トナルヘキ事項

現職業
 雜 賃 高

(1) 現職業

家族ニ在リテ使用人十六名

(2) 被害當時家族及使用人数

四千人

(3) 被害當時取引高

二 等

(4) 被害當時民會賞等級

二 回

(5) 哈府引揚回数

略歴明治三十九年大阪市南區天王寺尋常高等小學校ヲ卒ハテヨリ三年間

裁縫ノ勉強後ハ在リ北桃谷町四十五番地ニ専ラ家事、手傳ヲナシ大正三年
 九月始メテ露領沼海州ハハロフスタ市ニ在留セシ姉子エ、呼寄セ、下ニ
 渡航シ家事ヲ傳中姉ハ大正五年二月病氣療養、タメ帰朝中大正七年
 十一月在七臨終ノ遺言ト父母、勸メニ依リ後妻トシテ夫叔助ト結婚ナシ



大正九年三月二十九日引揚トナリ参人教ヲ同伴シテ帰國セシモノナリ

右之通り相違無之候也

大正十一年七月二十一日

右申請人

鶴崎うのゝ

外務大臣伯爵内田康哉殿

木材被害
輸送不能ニ至

鳥取県
鳥取市
鳥取県
鳥取市
鳥取県
鳥取市

81

不
在
不
動
不
着
買
掛

（被爆者救済会）

在 大坂府 九 藤田平太郎
 備考 金貳拾萬二千貳百円也
 申請額
 副申請額
 査定額 金五千五百円也

左に示す如く、被災者救済会に申請し、査定額を金五千五百円と認められたる。

左
已
號
用
紙

外
務
省

5-1115

附
録
類
添
附

救恤審査會

社第九一三號

大正拾壹年八月拾日



普通
受第 5375 號
11.8.12

大阪府知事 池 松 時
外務大臣 伯爵 内 田 康 哉 殿



救恤金下附申請書進達ノ件

當府大阪市北區網島町合名會社藤田組代表社員藤田平太郎ヨリ本年法律第
三十九號及勅令第二百四十七號ニ依ル救恤金下附申請書提出ニ付及進達候
追而申請人ハ當地方有數ノ富豪ニシテ其ノ社會上ノ地位及人格ヨリ推ス
モ申請書ニ根據ナキ記述ヲ爲シ又ハ不穩當ナル損害額ヲ計上スルカ如キ
者ニ無之思考セラレ候間申添候

九
五

大
阪
市

九 號

救恤申請書

一、申請者ノ姓名、藤田平太郎

年 齡、明治三十年拾月七日生

職 業、合名會社藤田組代表社員

本籍地、大阪市此通綱島町四丁目番地

現住地、全 上

二、申請者カ引揚又遭難為損害ヲ被リタル者ニ非サルハ被害者ノ姓名、年齡

榎田傳三郎、明治三十年參月貳拾五日生

職 業、會社員

本籍地、鳥取縣日野郡黒坂村大字黒坂四丁目八番屋敷

現住地、兵庫縣西宮郡西宮町今在家字田中町

申請者ト被害者ト關係、元合名會社藤田組補佐林業出張所主務

合名會社 藤田組

三、引揚又遭難ノ場所、霞領沼海州鳥蘇里線イホリト五駅ホール駅間九ヶ所

四、遭難前後ノ事情、大正七年參月浦乃斯徳市ニ當社出張所ヲ置キ

全所主務榎田傳三郎ヲシテ伐採買入ヲ為シタル白揚丸大ヲ

各地停車場へ推積シ烏蘇里鐵道輸送中ニ處日本軍及

露軍ノ作戰上鐵道ヲ破壊セラレ輸送不可能トナリ續而

吟府撤兵シテ全然各驛ニ放棄ス、止メキニ至リ爾來輸送ノ

途ナク無價物トナレリ

五、損害ノ種類、程度價格及事由

損害總額金貳拾萬貳千貳百圓也

但白揚丸大參於參万七千立方呎、壹立方呎當金大於錢也

又 譯

金大於參百圓也、ウスリ線イホリト五駅在、高港万四百立方呎



金五千八百八十也全
 スヤギノ駅在高九千八百立方呎
 金参万四也全
 スヤギノ支駅在高五万立方呎
 金貳万四千也全
 ウシリノ駅在高四万立方呎
 金参万参六百也全
 戸ノ上ノ駅在高五万六千立方呎
 金参万八百也全
 ケーヂノ駅在高参万八千立方呎
 金参万九千八百也全
 コチノ駅在高四万八千八百立方呎
 金貳万六千四百也全
 クラシノ駅在高四万四千立方呎
 金貳万四千也全
 ホールノ駅在高四万立方呎

以上

大正七年

六、引揚又、遭難ノ年月日 自大正八年六月至大正九年六月

七、引揚又、遭難ノ前被害者カ其地方ニ在リタル期間

自大正七年参月至大正九年参月約参ケ年間

合名會社 藤田組

八、証拠書類並ニ証拠物件ハ各地急遽引揚タル散逸ニ添付スルヲ得サルモ右擧
 害類ハ同地木材同業組合者中ヨリ委員ヲ選定シ以公平正確ニ調査ヲ遂
 ケタルモノニシテ大正九年六月帝國政府ニ補償ノ申請書ニ基キタリ、尚本
 件ニ関スル証拠書類ニ就テハ極力蒐集ニ努メ追而提出ノ見込ナリ、
 右之通り相違無之候也

大正拾壹年七月拾四日

堂島北町三拾番地

藤田組

代表社員 藤田平太郎



外務大臣内田康哉殿



普通
第 15692 号
11. 8. 25

附屬書類添付

社第九一五號

大正十一年八月二十三日

大阪府知事 池 松 時
内 田 康 哉 殿
外務大臣伯爵



救恤金下付申請書進達ノ件

當府大阪市北區玉江町一丁目株式會社増田仲銅所社長増田政治ヨリ本年
法律第三十九號同勅令第二百四十七號ニ依ル救恤金下付申請書提出ニ付
及進達候

追テ本件損害ハ會社カ露國「ペトログラード」ニ設置セル出張所ノ銀
行預金ニシテ政變ノ爲引揚ニ際シ引出シノ暇ナク其ノ儘遺棄シタルモ
ノニシテ證據物件トシテ銀行預金通帳ヲ所持セル由ニ付申請書ノ記載
事項ハ事實ヲ相違無キモノト認メラレ候間申添候尙爲御參考會社ノ營
業報告書添付致候

大阪府

法律ヲ奉拾九号ノ及勅令
ヲ或百四拾七号依ニ申請書

一本籍地 大阪府大阪市東区玉江町造丁目造番地

一現住所 全上

一職業 伸銅業

株式会社 增田伸銅所
社長 增田政治

一引揚ノ場所 露國ヘトログラード

二引揚ノ年月日 大正七年春月廿九日

三引揚ノ前後ノ事情

志ノ辨

大正六年冬月露國ヘトログラードニ出張所ヲ設ケ

取引ニ来リタル折柄突然事變動發シ尔来政
変相次ギ形勢日ニ急迫ヲ告グルニ至リタルハ

大正七年春月廿九日迄萬難ヲ排シ踏止リシモ
愈々危険身ニ迫リシヲ以テ急遽引揚歸國セリ

四損害ノ種類及事由

露都銀行預金價格金貳萬貳千零九拾九圓

廿零圓

右ノ事變ノ急劇ニ迫リシ爲メ預金引出ノ暇ナク

懸リタル損害

五引揚ノ前被害者カ其地方ニ在リタル期間

大正六年春月ヨリ大正七年春月廿九日迄

本以モ
行ハ



(大石堂文具店製)

記

六、添附証據書類及証據物件

露都アソフドンスコイ銀行預金通帳巻冊

此露貸金巻冊萬九附留

全 シベリア商業銀行預金通帳巻冊

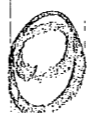
此露貸金巻冊貳百九拾九留并巻冊

全 割引貸附銀行預金通帳巻冊

此露貸金百留

右銀行小切手帖

四冊



以上証據書類及証據物件送付

仕候

右申請候也

大正拾陸年七月日

右

村會社増田伸朝

社長増田政治

大藏大臣市來乙斐殿

(大石堂文具店製)



大正拾陸年上半期
(自六月一日)

第四期營業報告書

株式會社
增田伸銅所

(大正拾陸年)



第四期營業報告書

鐵田伸銅所

大正拾陸年拾月拾日、至本年六月三拾日、至六月六ヶ月間
當期社營業成績左ノ如シ

製造品之專

當期間當期社於製造各種品其具數
量左ノ如シ

一銅棒 七萬六千七百五拾五斤

一銅線 拾三萬九千零九拾九斤

一銅管 計拾四万七千四百八拾九斤

一真鍮棒 計拾六万五千七百七拾九斤

一真鍮線 計萬零七百六拾九斤

（本報告書は、本所より）



一 真鍮板	老千九百九拾部斤
一 真鍮管	老百拾部斤
右計	八拾萬零八百零拾部斤
外	
一 コークス	老千五百部八部
販賣品之事	
一 銅板	老千九百九拾部斤三七五
一 銅棒	八万四千九百九拾部斤九三七五
一 銅線	拾四万部千七百八拾斤二五
一 銅管	老千六百七拾部斤三七五
一 真鍮板	老千六百五拾部斤七五
一 真鍮棒	老千八百部千四百部拾七斤七五
一 真鍮線	部千七千八百七拾八斤三七五
一 真鍮管	七千七百零拾斤六八七五
一 九八型銅	老萬。五百八拾五斤
一 亞 鉛	八拾六斤
一 下三三三	七千部百部拾部斤二二五
一 真鍮陶味	老千九百七拾六斤
一 真鍮屑	八萬零千六百七拾三斤五
一 銅 糝	部万零千九百拾四斤
一 銅 釘	七百四拾九斤二五
一 銅陶味	九千五百四拾斤五
一 信管本縣	千九百部拾七斤五
一 ホウシロク	百九拾九斤

(大石堂文具店製)



一アルミ板	七百七拾斤五
一アルミキ	九拾七斤
一錫	九拾斤五
一真鍮錠	赤千部百拾斤
合計	九拾九万七千部拾斤三七五
外ニ	
一コークス	千四百七拾八担四

貸借対照表

資産	負債
未払込研金	資本金
三、七五〇、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
什器	預り金
一七、七〇〇、〇〇〇	三三〇、三九四、九〇〇

(大石製文具店製)

創立費	三二七、〇〇〇	掛買金	一、五四六、六二〇
土地建物	八三八、〇〇〇、〇〇〇	借入金	四四〇、〇〇〇、〇〇〇
大保子鉱山	七、一六八、七四五	割戻金	七〇、三二九、九六〇
有價証券	二〇〇、三二五、〇	仮入金	三四七、四〇、一二〇
賣掛金	一、二七五、六七四、二〇〇		
東京出張所	八、三七四、二六〇		
コークス	一、二六二、一四五、〇		
當座預金	一、五二七、〇〇、八〇		
受取手形	一、一七〇、六一六、〇		
仮払金	六三二、〇〇、八三三		
立替金	二五〇、〇〇〇		
現在金	二〇、八三三、三二〇		



地産製産 及半製産	五〇〇、八〇、二四九。
需用品代	九〇、一七六。
前期繰越 損失金	一、二五、九九、九三三。
当期 損失金	四三、三九、六三三。
合計	五五、一六、三五八、一九〇。

損益計算書

借方	金額	貸方	金額
地金買入代	八〇、九七〇、九三〇。	銅板	九、五、六、四、五〇〇。
仕入品代	四三、一七、八、三二。	銅棒	四、六、一、七、二、五〇。
雑損	八〇、六、二七。	銅線	八、二、四、六、五、〇〇。
職工賃	六三、二七〇、〇六。	銅管	一、四、六、二、五、一、五〇。

(大石製鐵所)

支出手間賃	五〇、六、九、四五。	真鍮板	六、四、〇、七、一七〇。
需用品代	四三、六、三〇、一五〇。	真鍮棒	一、一、六、四、三、九、二六〇。
秤量異損	三、七、六、一三〇。	真鍮線	一、四、五、四、〇、〇四〇。
貯積金	四、七、六、六、九五。	真鍮管	七、七、三、二、八四〇。
運賃荷送費	一、一、三、〇、四、一四〇。	電気銅	三、五、九、八、九〇〇。
保険料	一、七、六、七、二〇。	亞鉛	二、一、六、一、〇〇。
諸利息	二、三、一、〇、四、七一〇。	凡三十三	四、〇、一、三、四、八〇。
機械修繕	七、六、七、一、六〇〇。	真鍮屑	二、四、七、〇、四、一六〇。
燃料	一、五、〇、九、〇、一八〇。	真鍮陶味	二、四、二、〇、六〇〇。
諸税金	四、三、八、一、九三〇。	雑品	一、六、八、〇、一、五三〇。
管繕費	二、九、九、三、九二。	手間賃	三、一、九、二、九八〇。
通信費	七、五、三、七、八〇。	雑収入	三、四、二、一、三二〇。

雑費	手数料	四四三、二五〇
	株券書換	
	手数料	七、八〇〇
	コーパス部	一、九八六、九七〇
	益	
	諸経費	五〇〇、八〇二、四九〇
	需用費	九〇一、七六〇
	當期損金	四三、三九二、九三〇
右計	合計	一〇、三五、二七二、九五〇

貸借対照表資産ノ部ニ同シ

財産目録

欽損金ノ事

(大石製薬具店贈)

一金拾萬五千元九拾百九拾六錢前金	前期繰越損金
一金四萬七千六百九拾百九拾六錢	當期損失
右計金拾一萬九千六百九拾九錢前金	後期繰越損金
右之廻相違無之候也	
大正拾陸年六月三拾日	
株司會社 増田伸嗣所	
取締役社長 増田政治	
比田權造	
左 股部 桑平	



										監査役 木村野高雄
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------------

(大石祭文並書)

5-1 1 1 5

